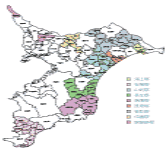
隊友千葉だより



千葉県隊友会事務局
事務所開所時間
月・水・金
10:00～15:00

会長　菊地　聡

初夏を思わせる日差しの中、令和６年度千葉県隊友会通常総会において令和６年度事業計画等が承認され新たな年度の幕明けとなりました。

我が国を取り巻く安全保障環境はより一層厳しさを増しています。ウクライナ、中東情勢は依然として収拾の目途は立っておりません。国内においても能登半島地震の発災など大規模災害への対応が行われました。抜本的防衛力強化の元年に当たり、今まで手当てができなかった各種事業もその一歩を踏み出しています。現職自衛隊員に対する期待は以前にも増して大きくなっていると感じています。

その反面、人的基盤強化の原動力である新入隊員の獲得が次元の異なる厳しさを迎えています。この原稿を書いている時に、「海自ヘリ２機の事故」の悲報が入ってきました。自衛隊の担っている任務の重要性と任務遂行におけるリスクについても広く知っていただく必要があり、現職に代わりその役を担えるのが隊友会の意義でもあると考えます。更に「隊員家族に対する支援の拡充」も隊友会に期待されるものです。千葉県隊友会においてもマンパワーの減少傾向が明らかとなっています。何ができるのかをしっかりと検証して家族支援の実効性の確保を図っていきたいと考えています。各支部におかれましては引き続き新入会員の獲得と各種事業に対するご協力をお願いします。

そして、平素から我々の活動にご理解とご協力を賜っております特別会員の皆様、現職自衛隊員の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。あわせて皆さまのご多幸とご健康を祈念申し上げ挨拶といたします。

千葉県隊友会　特別会員
佐藤正久参議院議員　ご挨拶

参議院議員
佐藤正久

３月に令和６年度の予算が成立し、抜本的な防衛力の強化が始まりますが、その中でも人的基盤の充実は最優先事項と考えます。

しかし、新隊員募集は危機的状況です。令和４年度の自衛官候補生の入隊者数は予定の約１万人に対して４千人弱に留まり、目標達成率は４割を切るという衝撃の結果でした。現在集計中の令和５年度の募集状況についても令和４年度よりかなり厳しいと、現場からは聞き及んでおります。

急速に進む少子化の中、この状況を打破して人的基盤の充実を図るには、自衛隊員の処遇改善を強力に推し進めることが不可欠です。

まずは、基本給や各種手当の充実が必要です。例えば、海自の艦艇乗組員や空自のレーダーサイト要員は、２４時間を当直で回します。このため、艦艇乗組員には以前から「乗組手当」が支給されていましたが、今回の予算措置でその額を大幅に引き上げることになりました。そして、レーダーサイト要員には新規に勤務手当が支給されます。そして、隊舎・宿舎の整備と、そこで使用する備品・日用品の調達です。普段勤務する隊舎や営内居住者の生活の場である宿舎の改善は言うまでもなく、予算不足が原因で今までは隊員達が仕方なく備品・日用品を自費で購入していた状況は、絶対に解消されるべきです。

給与は仕事に対する基本かつ重要なモチベーションの１つですし、昨今の物価上昇も考慮すると、給与や各種手当の充実は人的基盤を充実させるうえでの最重要事項だと考えます。

字数の制限がありますので、以上２点の説明に留めますが、処遇改善の問題についてはこれからも国会等で議論し、かつ防衛省と直に連携をしながら、さらに改善を続けていく所存です。

身命を賭して国民の生命財産、国の平和と独立を守る自衛隊員たちが任務に全力を傾注できる勤務環境の整備は、国会議員に課せられた役割です。「人は城、人は石垣」という先人の言葉を胸に刻んで、課せられた役割を愚直に果たしていきたいと存じます。

“令和６年度通常総会”開催

令和六年度千葉県隊友会通常総会を四月十七日に三井ガーデンホテル（千葉市中央区中央）において開催され、会長以下県本部、各支部長等および顧問・参与の会員合わせて五十二名が出席しました。国歌斉唱、七十三名の物故者に対する黙とうおよび会長挨拶に続き、議長に選出された県本部三浦事務局次長の議事進行に基づき、大根事務局長から令和五年度事業報告・決算報告、令和六年度事業計画・予算計画および令和六年度役員の五個議案が報告され、参加者による審議を経て全てが可決されました。

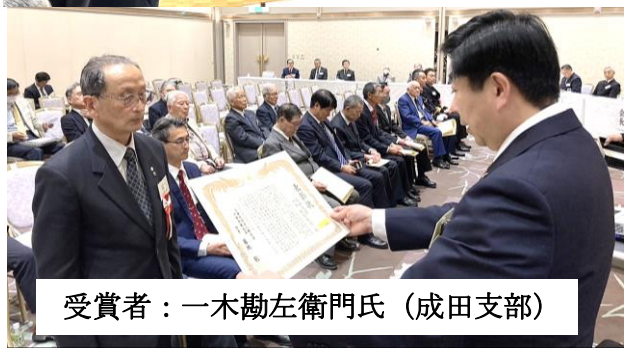
総会終了後、表彰式を実施し、令和五年度隊友会活動にご尽力された会員九名に会長から副賞を添えて表彰状を授与しました。また、隊友会の会勢拡大と部隊研修協力などのご支援に感謝し、陸上自衛隊第１ヘリコプター団および海上自衛隊第３術科学校に感謝状を贈呈しました。

休憩をはさみ、恒例の「防衛講演会」を開催し、今回は、「井筒俊司前航空幕僚長」をお招きして『空と宇宙にあこがれて』と題して航空自衛隊でのご経験と宇宙の現状等について、大変興味深い講話をいただきました。

総会：三浦事務局次長による議事進行

講演会
井筒俊司氏
（前航空幕僚長）

在葉部隊長紹介
代表の國見海将ご挨拶


受賞者：一木勘左衛門氏（成田支部）

その後、場所を隣の会場に移動し、特別会員、関係諸団体の皆様および海自教育航空集団司令官國見海将以下、陸海空在葉部隊指揮官十一名の出席をいただき、総勢九十二名による隊友会らしい懇親会を開催できました。特に國見海将と西川地本長の挨拶にありましたが、自衛官の募集は極めて厳しい状況にあることから、会員も募集協力の必要性を痛感したと思います。また、特別会員である議員からも自衛官募集ポスター掲示を申し出る方もおられ、有意義かつ和やかな懇親会でした。

個人表彰

一木勘左衛門（船橋支部）
神谷　博（松戸支部）
清水　実（松戸支部）
井澤公博（柏　支部）
圓藤春喜（柏　支部）
新保義則（沼南支部）
本田雅晴（館山支部）
大竹　明（木更津支部）
牟田清高（木更津支部）

在葉部隊への感謝状

陸上自衛隊
第１ヘリコプター団（木更津駐屯地）
海上自衛隊
第３術科学校（下総航空基地）

令和六年度千葉県隊友会 本部役員

会　長　菊地　聡（海）
副会長　青木　清治（空）
　　田中　誠一（事）
事務局長　大根　正雄（陸）
事務局次長　三浦　洋（海）
理事役
永岡　雅史（陸）　高谷　哲郎（陸）
門岡　慎也（陸）　門脇　清美（陸）
茂木　利明（陸）　小芝　寛海（陸）
富田　聖一（陸）　宮越　章（海）
藤田　穣（陸）　伏見　昭彦（陸）
梁池　雅彦（陸）　藤田　正之（陸）
松田　一也（陸）　加納　伸隆（陸）
横谷　薫（空）　舟根　正直（陸）
大矢　和司（陸）　新光菅まり子（自）
監事役
河西　伸人（海）　小渡　朝義（海）
相談役
千葉地方協力本部長　一等海佐　西川和弘

令和６年度千葉県隊友会支部長

千葉中央	今瀬　信之	（空）
千葉美浜	首藤　敏明	（陸）
千葉花見川	片山　隆仁	（事）※
千葉稲毛	櫻井　武之	（空）
千葉若葉	生見　時久	（陸）
千葉緑	林　征二郎	（陸）
市原	欠	
八千代	日野　進	（陸）
習志野	柚木　文夫	（陸）
船橋	（支部調整中）	
浦安	吉岡　誠	（陸）
市川	金井　泉寿	（陸）
我孫子	豊嶋　尉史	（陸）
鎌ケ谷	坂本　祥貢	（陸）
松戸	中川　博英	（陸）
流山	田坂　徹夫	（陸）
野田	青田　実	（空）
柏	阿比留義顯	（海）
沼南	永岡　雅史	（陸）
白井	増山　普一	（陸）
印西	津村　隆尋	（陸）
四街道	筒井　紀詔	（陸）
佐倉	森田　悦朗	（陸）
八街	岩井　勝己	（陸）
成田	石橋　隆夫	（海）
香取	石川　芳夫	（空）
東総	都祭　広一	（陸）
山武東金	越川　政道	（陸）
長生（兼 茂原）	森本　澄男	（陸）
夷隅	高橋　清三	（陸）
安房	三好　文雄	（空）
館山	川村　巌	（海）
木更津	清水　久兀	（陸）

※支部長代行

春の叙勲

受章者の皆様おめでとうございます

瑞宝双光章

秋廣　豊	（沼南支部）	第３術科学校
相良　哲也	（四街道支部）	高射学校
関　智之	（白井支部）	第３術科学校
備前　修一	（茂原支部）	第１空挺団
福島　秀明	（白井支部）	関東補給処
不破　直幸	（香取支部）	第１２特科隊
本澤　功	（館山支部）	第２１航空群
前田　英昭	（松戸支部）	第３術学校

瑞宝単光章

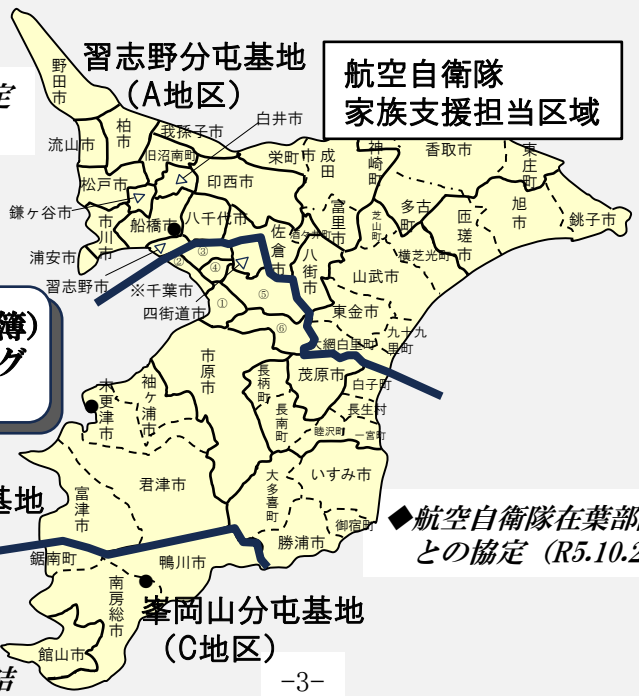
中村　敬生	（緑支部）	高射学校
長森　秀夫	（船橋支部）	第１空挺団

自衛隊家族支援における隊友会の協力

千葉県隊友会は、千葉県内の陸上自衛隊および航空自衛隊各部隊と「隊員家族の支援に対する協力に関する協定」を締結しています。派遣された隊員が家族の憂いなく任務に邁進できるための施策です。自衛隊からの要望に対する会員の一層の協力により、実効性を向上させたいと考えます。

◆陸上自衛隊中央協定（H29.5.18）
　陸上幕僚長、隊友会理事長および家族会会長の間で締結
◆隊友会の協力事項
（隊員が派遣された場合、自衛隊が行う留守家族支援の協力で、隊友会が可能な場合に適用）
①隊員家族の安否確認
②隊員家族の状況に応じ必要と思われる事項（生活支援等）

◆陸上自衛隊在葉部隊との協定（H30.2.22）



協力の流れ

駐屯地業務隊等（要望者名簿）
➡支部会員とのマッチング
➡顔合わせ（面談）

◆航空自衛隊在葉部隊との協定（R5.10.24）

※海上自衛隊千葉県在葉部隊との協定：未締結

5月の健康管理

専門書等には、「5月病」として、「社会人や学生など、新しい環境に適応できずストレスを溜めた結果、5月の連休後に心身の不調をきたす状態を指し、「新生活がスタートして1ヶ月程度過ぎた5月頃に出る」「学生や新入社員に起こりやすい」「かつては大学の新入生に多いといわれていたが、最近は新社会人や職場環境が大きく変わった社会人に、よく見られるようになってきた」と言われ、正式な医学用語ではなく、病名としては「適応障害」と診断されます。」等と記載されています。

それでは、新年度に入学・入社した新人や職場環境が大きく変わった社会人だけが5月病になり、そうじゃない人は5月病にならないのでしょうか？

幸いにも私は、5月病になったことがありませんが、この時期に周りには新人でなくても、職場環境等が大きく変わってなくても、体調を崩す人がいるように思います。

これは、年度末の業務の締めくくりとして、3月を決算期と定めている企業、組織等が多いため、決算の準備及び新年度の計画準備が始まる3月、実際に決算業務・新年度計画を進める4月、決算報告のため株主総会準備等で仕事量が増えて忙しくなることが原因の一つと考えられないでしょうか。

新人や職場環境等が大きく変わった人以外でも、次の症状が多くある人は、5月病と言われていますので、チェックしてみて下さい。

◆身体の症状
□眠れない。
□疲れる。
□食欲がない。

◆心の症状
□気持ちが落ち込む。
□何となく不安
□何もしたくない。
□焦る。

◆行動の症状
□仕事を休む。
□人と会いたくない。
□やる気が出ない。

また、五月病を治す上で大切なのは、「気分をリフレッシュすること」で次の行動が、気分転換に適しているそうです。

◇軽い運動をする。
◇音楽や読書、映画などを楽しむ。
◇旅行に行く。
◇アロマテラピーなどでリラックス
◇習いごとをする。

しかしながら、気分転換できない場合、医療的なケアが必要となるため、重症化する前に無理せず病院で適切な治療を受け、5月病を乗り切って下さい。

（厚生労働省　健康・医療サイト参照）

◆印西支部◆

印西市は、千葉県の北西部に位置し標高20～30mの平坦な下総台地と利根川、印旛沼及び手賀沼とこれにより形成された浸食谷の低地により作られた自然に恵まれた地域で、昭和59年の千葉ニュータウンの入居開始以後逐次人口が増加し、平成8年に印西市となり、平成22年に印旛村及び本埜村と合併し現在の印西市が誕生しました。市は業務核都市に指定されている千葉ニュータウンの中核都市であり、商業中心の都市として又東京都心に通勤する子育て世代が増加する住宅都市として成長し、現在人口11万人を擁しています。

この地域は、関東平野の中で活断層がなく台地上の岩盤が強固で地震等の大規模災害に強く世界中から注目され、大企業や海外企業のデータセンターが建設されると共に東京都と成田空港の中間に位置し都心へのアクセスの良さから多くの巨大な物流センターが建設されています。例えば世界的企業のグットマングループが進出してグットマンビジネスパークを開発しており、グーグルのデータセンターも去年4月から活動を開始しています。

一方、春には「吉高の一本桜」が次第に評判を呼んで訪れる人も急増し、冬には1000羽以上の「白鳥の飛来地」としても人気を集めております。

印西支部は、平成22年に会員数53名で発足し、今年で15年を迎えますが、千葉県内では比較的若い支部と思います。毎年、会員の入退会はありますが、発足当時と比べて会員数は殆ど変わらず、現在の会員数は57名、出身別内訳は、陸自32名、海自18名、空自7名、年齢構成別では、80歳代21%、70歳代35%、60歳代25%、50歳代及びそれ以

下が１９％であり、特色は習志野駐屯地空挺団出身者１１名、下総基地出身者１１名が中核をなしています。

年度総会は、毎年６月末に実施しており総会及び懇親会を実施し、参加者は、約２０名前後であり、４名の特別会員には必ず出席して頂いております。

新聞の手配りは、５４名の会員（新聞不要者及び郵送者を除く）に実施しており、地域を７個地区に分け７人の役員が実施しています。

災害情報協力者は、地区を５地域に分け５名の情報員を指名しており、家族支援は、未だ要請もなく実施しておりません。

発足時、支部の運営をスムーズにする目的で役員を１０名体制にしましたが、種々の場面で力を発揮しており今後もこの体制を維持したいと考えています。

問題点としては、役員の高齢化、総会参加者数の固定化、支部活動の限定化、若手会員の不参加等ありますが、特に支部長を含んで役員の老齢化（８０才代４名、７０才代５名、６０才代１名）は、顕著であり早急に取り組む必要があると考えて居ります。

印西支部長
津村隆尋

「吉高の大桜」
樹齢400年を超える孤高の一本桜で国花として親しまれているヤマザクラであり、市の天然記念物にも指定

◆千葉中央支部◆

千葉中央支部は、会員数４２名、内訳として陸、海、空、事務官・技官出身者、それぞれ、２５名、５名、７名、５名で構成されています。

中央区には県庁、市役所をはじめとする行政施設、博物館、科学館、美術館などの文化教育施設、千葉駅周辺の商業施設、そして蘇我駅周辺の工業施設とこれに隣接するフクダ電子アリーナ、動物園、競輪場などのアミューズメント施設、千葉市の基礎を築いた千葉氏にゆかりのある神社仏閣などが所在し、郊外の豊かな自然も相まって、環境に恵まれた住みやすい街を形成しています。区内の人口も転入による社会増に後押しされ、緩やかではあるものの順調に増加しています。

一方、中央区には駐屯地等が存在しないこと、新規入会者が少ないこと、他支部と同様に高齢化が進んでいること、自身の力不足にも起因して、支部の活動はほぼ実施することができていない状況です。

地域の自治会活動や学校のＰＴＡ活動は、自己の生活に直結しているところもありますが、隊友会や他ＯＢ団体の活動は究極のボランティアであり、退職者の中には入会や活動参加のメリットが見いだせない方も多数おられると思います。そのような中、国民と自衛隊の懸け橋として国の防衛や地域社会の発展に貢献する等の目的に賛同され、会費や寄付金を納めて頂いている支部会員の皆様にはたいへん感謝しておりますが、連絡を取りづらい状況に少し寂しさも感じております。

コロナ禍も去り活動ができる環境にもなりましたので、まずは緩やかなつながりを作っていければと思います。特段の用事がなくても結構ですので、ぜひご連絡ください。何卒、よろしくお願い致します。

千葉中央支部長　今瀬　信之
連絡先：eagle00rdr@hotmail.com
090-2208-1267

↑
「フクダ電子アリーナ」

「妙見本宮 千葉神社」

【千葉県隊友会事務局】

〒260-0042
千葉市中央区椿森1丁目26-9
コンラッドビル4階
電　話：043-306-2095
ＦＡＸ：043-306-2096

Eメール
chibataiyuu@angel.ocn.ne.jp

ホームページ
http://www.chibataiyuu.com/

千葉だより７５号
編集担当　伏見理事役